

■大統領選挙に向かうトランプ政権

(1) 大統領選に関する世論調査

- ・トランプ大統領の全米支持率 45%前後、不支持 55%で安定している状況。
- ・ただし、接戦州（オハイオ、ノースカロライナ等）の調査は民主予備選候補とほぼ互角
- ・直近 8 月調査でテキサス州でバイデン・サンダースに僅差で負けている状況。

(2) 民主党予備選挙に関する世論調査

- ・バイデンの首位は安定している状況で、激しい 2 着争いが繰り広げられている
- ・2 着争いはウォーレンが抜けている、若者中心のサンダースは失速、ハリス・ブティジェッジは伸び悩み。9 月第 3 回 TV 討論会でバイデン・ウォーレン直接対決、ブティジェッジの予備選本選でまくる可能性も。
- ・バイデンの死角は小口献金欠如、小口献金の増加が選挙戦に与える影響が拡大中

(3) 両極化を進める小口献金プラットフォーム

- ・小口献金プラットフォーム「Act Blue」の威力（選挙で倍増以上の成長を続ける小口献金）
- ・共和党側の対応の遅れ（過去のビジネスモデル、トランプ大統領への反発等）
- ・「WinRed」の導入、ただし着実に機能するには時間がかかる可能性も。

(4) 勝敗を左右するフロリダ州・人種構成の影響

- ・フロリダ州の支持率はトランプ VS 民主党予備選挙候補者で拮抗している状況
- ・キューバ系ヒスパニックからの支持を獲得するための政策（対キューバ、対ベネズエラ）
- ・高い投票率を誇るユダヤ系住民の切り崩しの徹底（イスラエル、民主カルテット等）

(5) ラストベルト・サンベルトの矛盾克服

- ・ラストベルトはインフラ投資を巡る政策のせめぎ合い（民主党内の確執も注目）
- ・サンベルトは貿易戦争不信・人種構成変化が与える影響を考慮
- ・相矛盾する要素を拡幅するために求められるナショナリズムの拡大可能性

(6) 対中交渉を左右する宗教団体の影響力

- ・トランプの対外貿易交渉に見られるイレギュラー発生のケース（メキシコ・中国）
- ・融和派、強硬派、安全保障関係者、宗教団体・ネオコンの 4 つの影響力争い
- ・来年以降は宗教団体・ネオコンの影響力が拡大する可能性も

(7) 2020 年大統領選挙の見通し

- ・民主党支持団体と共和党支持団体の組織運動の性質の違い
- ・重要なポイントは経済指標と有色人種失業率
- ・戦局を左右する第三の候補者が出馬する可能性も依然として存在